

2023年度

事業報告

自 2023年4月 1日
至 2024年3月31日

公益財団法人東洋紡バイオテクノロジー研究財団

2023年度 事業報告

1. 事業の状況

(1) 概況

本年度は、当財団の目的である「バイオテクノロジーの研究開発が、医療・食料・資源・エネルギー・環境など的人類の福祉にかかる諸問題の解決に有力であることに期待し、これらの科学技術の調査、研究開発を促進し、その成果を通じ、より高度な文明社会の創造に寄与することに貢献すべく、以下の事業を実施した。

- (ア) 長期研究助成金の交付
- (イ) 各種資料の刊行
- (ウ) 研究会・交流会の開催

(2) 長期研究助成金の交付

令和5年3月15日開催の2022年度第2回通常理事会で決定した事業計画に基づいて、2023年7月1日から8月31日まで助成希望者の公募を行った。24名の応募者があり、10月6日までに全選考委員により書類審査を行い、10月23日に選考会を開催して助成候補者を選考した。

さらに、2023年度第2回臨時理事会での承認を経て、5名に長期研究助成金の支給を決定した。但し 第2回臨時理事会後2名から辞退の申し出があり3名への支給となった。2024年2月2日に東洋紡本社会議室にて、Microsoft Teams を利用したウェブ会議形式を併用して贈呈式を開催した。

2023年度 長期研究助成金 贈呈者一覧

氏名	所属 (身分)	留学先 (指導教官)	研究テーマ
大田 海斗 オオタ カイト	京都薬科大学大学院 薬学研究科 (大学院生)	Universitätsklinikum Würzburg (Takahiro Higuchi)	パーキンソン病診断の新たな展望: α -シヌクレイン PET/SPECT プローブの開発と臨床応用
栗林 宗平 クリハヤシ ソウヘイ	大阪大学大学院 医学系研究科 (大学院生)	Cleveland Clinic (Scott Lundy)	細菌叢に着目した男性不妊発症メカニズムの探索と新規治療法の開発
初田 茜 ハツタ アカネ	京都大学 高等研究院 (研究員)	University of Illinois at Urbana-Champaign (Gene E. Robinson)	脳内ミトコンドリア DNA 多型から紐解く行動多様性の原理

(3)各種資料の刊行

2023年度版のパンフレットとしてA4版、28頁の小冊子を刊行した。掲載内容は「財団の概要」、「財団名簿」、「事業概要」、「2022年度長期研究助成金受贈者代表感想文」、「2021年度長期研究助成金受贈者報告文」「最近の事業実績(平成25年度～2021年度)」及び「募集要項」等である。

(4)研究会・交流会の開催

12月の分子生物学会のバイオテクノロジーセミナー枠を利用し、近藤理事・林理事にコーディネーターの下、4名の元贈呈者の留学経験の講演＋パネルディスカッション実施。聴講者100名以上。

その後 財団関係者・長期研究助成受贈者等36名による交流会を開催し、元受贈者の現況報告、出席者間の交流、財団運営に関する意見の収集を行う。

2. 2023年度年間事業等一覧

2023年

- | | |
|-----|---|
| 5月 | 2023年度第1回通常理事会 |
| 6月 | 2023年度定時評議員会
2023年度第1回臨時理事会(業務執行理事1名選定の件) |
| 7月 | 2023年度版パンフレット刊行
2023年度長期研究助成公募開始(8月31日まで) |
| 10月 | 長期研究助成候補者選考(書類審査、選考会) |
| 12月 | 研究会・交流会の開催
2023年度第2回臨時理事会(2023年度助成金贈呈者承認の件；決議の省略による開催) |

2024年

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 2月 | 2023年度長期研究助成贈呈式 |
| 3月 | 2023年度研究助成受贈者対外発表
2023年度第2回通常理事会 |

以上

附属明細書

附属明細書は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項」に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2024年4月
公益財団法人
東洋紡バイオテクノロジー研究財団